

2021（令和3）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅱ期

国語総合（近代以降）（60分）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで問題を開かないでください。
2. 問題冊子は15ページあります。ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に氏名、受験番号をそれぞれ正しく記入してください。
4. 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。

（例）解答番号1に対して、⑤と解答する場合

解答番号	解答記入欄
1	① ② ③ ④ ⑤

5. 解答用紙に正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 訂正箇所は、消しゴムできれいに消してください。
7. 解答欄には、関係のない符号や文字あるいはメモなどを記入しないでください。
8. 解答用紙を折ったり汚したりしないでください。
9. 声を出して問題を読んではいけません。
10. 不正行為について
  - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
  - ②不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
  - ③不正行為が確認された場合は、すべての科目が失格となります。
11. 質問のある場合や気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせてください。
12. 問題用紙は持ち帰ってください。

## 国語

(解答番号は 1 ～ 36)

1 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。解答番号は 1 ～ 11。

(注1) 芭蕉には、和歌のゆき詰まりをなんとか打開したい気持ちがあつたので、俗語を用いるにしても決して安易にはなく、苦しみながらよく考えたのであろうと思うのです。正統の和歌ではとかく避けられている俗語は、上流社会では貶められていますけれど、このことについては(2)芥川龍之介がとてもしいことを言っています。俗語だけ使うのだったら、芭蕉が始まりではなかつた。(注2) 上島鬼貫だつて使つていた。芭蕉のいいところは、俗語に錬金術を施したことだ、と書いています。つまり、A ということを芥川龍之介は(3)稱揚したのだと思います。

俗語を使うとどうということになるか。上流社会、あるいは伝統文芸において重んじられたのは「雅」とされていた言葉です。(注3)「三冊子」のなかに、「高く心を悟りて俗に帰るべし」と(注4)「教へなり」という一説がありますが、芭蕉にも駄洒落の時代がありましたし、なにも、「おくのほそ道」や「野ざらし紀行」(甲子吟行)「笈の小文」のなかなどに出てくる名句がいきなり詠み出されたわけではないのです。

ただ自分の道を探り、求めていくのに、俗語をも使うのはやはり、それまでの正統派の和歌に対する大挑戦だつたと思います。俗語を使つて、雅語と同じ地位を与えるということのなかに革新者としての仕事もあつたし、古い文化を享けながら、新しい文化をつくり出していく人間としての誇りも見せています。

近世の(注5)俳諧全体からみると、私は、芭蕉が長男で、(注6)蕪村が二男ぐらいの甘さがあるという印象で、長男の苦勞はさぞやと想像しています。これは(7)与謝野晶子の傾聴すべき意見ですが、蕪村は芭蕉がいたからとても得をした、やりやすかつた。芭蕉は蕪村が出てくれたことで、自分の仕事をさらに広げることができたのだと書かれています。さすがに(8)造詣の深い方は違ふと思ひました。

私は、芭蕉と蕪村の句のいくつかと「おくのほそ道」の口語訳をいたしました。訳せば訳すほど、自分の言葉が無駄に思われ、結局、原文がいちばんいいということに気づいて困つてしまいました。「おくのほそ道」は、本当に名文です。私などの力では、あの口語訳は、とても難しいです。とにかくいつたん訳し終わらして、どういふふうにならうかと思案しながら、改めて原文がいちばんいいと思ひ知らされました。原文と訳は別のものだと頭では承知してい

るつもりでも、原文の力にはしばしば圧倒されます。芭蕉は、やっぱり「おくのほそ道」には、己の全生をかけたのではないかと思うようなところがあります。自分のことだけではなくて、日本文学全体をみていて、俳諧ほどのようにあるべきかということ絶えず考えていた人ではないかと。

それを思うと、蕪村は、自分が楽しんでいい句をつくってあればそれでいいというようなところがみえて、絵のほうでも、一家を成していますが、<sup>B</sup>あそこに来て、芭蕉が門人たちと一緒に(注7)にもつていた「座の文学の栄え」というものが、なにか細つていく感じがするんですね。

その「座の文学」ですが、私は最初のうちは、「文学は共同ではできないのだ」などと生意気なことを思っていて、理解できなかつたのです。ところが俳諧の(注8)歌仙の約束事というものを少しずつ教わって、言葉の展開と発展、飛躍の過程を理解してくると、おのずから考えはただされます。たとえば日本には平安時代十世紀の半ばから百首歌というものがございまして、一人が一時に百首を詠んでいます。定数歌(ていすうか)とよばれて五十首、千首と詠まれる例もあり、作者が複数の場合もあります。これは近代まで続いているのですが、その百首歌は、いくら首数は多くても一人の作者の詠みとなると、どんなにがんばっても歌の領域が限られてきます。それに比べると、三十六句で一卷というこの俳諧の歌仙は、実にはのびのびとした付け合いのおもしろさで展開し、発展し、思いがけない飛躍で現出する言葉の宇宙です。

俳諧の歌仙と百首歌とは別のものですから、安直に比べることはできませんが、芭蕉が力を入れた座の文学は、人間の表現能力という点では(ア)画期的な飛躍を示しているという気がいたします。それが蕪村のところへきて、個々の句は非常にうまく、修辭的にも洗練されていつたかもしれないけれども、反動(イ)というのか、座から個へ、内への籠りに戻つていったという印象を持ちました。

芭蕉の手紙を見ますと、教育者でありながら同時に、ごく普通の(エ)市井の人情家として喜怒哀楽を隠さなかつた人だということがよく分かります。芭蕉の俳諧では、最後に「軽み」ということが言われていますが、蕪村には教育者のおもかげは感じません。ただ、蕪村の俳文を読みますと、お兄さんの芭蕉の(オ)供養(くやう)というか、そういうものがちよつと親身になつて感じられる部分も出てきて、それは私には快いものでした。二人のしたことを突き放して考えますと、やはり芭蕉の作品には人間を沈潜させる、深く考えさせる、そういう働きがあり、それに対して蕪村のほうは、どちらかという(セ)煽情的な、気分を高揚させるような働きがあると思います。

芭蕉も蕪村も、自分たちが新しいものを出そうとしながら、その一方で、古い人の仕事を重んじているという点では、通い合っていました。私は、日本の文学の歴史をみて、大きな仕事を残した人は、ほとんど例外なく、それ以前の文学に満足しきれない自分を持つていて、なん

らかの反抗の姿勢を持っているけれども、それは、決して反抗だけに終わらず、新しい表現を生んでいる。そして、その新しい表現の根には必ず、それ以前の日本のよい文化に対する無限の尊重があつたと思います。しかも、その古い文化を学ぶのは当たり前であつて「私はこういうことを知っている」「こういうことを勉強しているのだ」とひけらかすことはありません。自然にじみ出るものが、どうしても必要なものとして過去の文化遺産を勉強したことを示しています。それは、今の時代の大きな反省の材料かもしれません。

(竹西寛子『言葉を持つ』より。)

- (注)
- 1 芭蕉 — 俳人 (一六四四〜一六九四年)。
  - 2 上島鬼貫 — 俳人 (一六六一〜一七三八年)。
  - 3 「三冊子」 — 芭蕉の弟子である、服部土芳<sup>はつよりとほう</sup>著の俳諧論書。
  - 4 教へ — 芭蕉の教え。
  - 5 俳諧 — 発句 (俳句)・連句 (俳諧の連歌) の総称。
  - 6 蕪村 — 俳人・画家 (一七一六〜一七八三年)。
  - 7 座の文学 — 俳諧の連句。五七五と七七のリズムを、座の参加者が連ねて、一巻の作品に仕上げるもの。
  - 8 歌仙 — 「座の文学」の一つ。和歌の三十六歌仙にちなむ。ここでは、後出のように、三十六句で一巻の作品に仕上げるもの。芭蕉以降、俳諧の代表的な形態となった。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

- (ア)  ① しょうじょう ② しょうば ③ しょうちよう ④ しょうよう
- (イ)  ① ぞうさく ② ぞうし ③ ぞうけい ④ ぞらもら
- (ウ)  ① かつき ② かくき ③ がき ④ かき
- (エ)  ① しせい ② しい ③ いちい ④ いつち
- (オ)  ① こうよう ② ぎようよう ③ くよう ④ ぐよう

問2 傍線部(a)「芥川龍之介」・(b)「与謝野晶子」とあるが、芥川龍之介の小説と与謝野晶子の短歌として適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つ選べ。

解答番号は  ・ 。

(a) 「芥川龍之介」

- ① 『細雪』 ② 『齒車』 ③ 『破戒』 ④ 『晩年』

(b) 「与謝野晶子」

- ① その子二十櫛こにながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな
- ② のど赤あかき玄鳥つばきふたつ屋梁やぐらにゐて足乳根あしちねの母は死にたまふなり
- ③ くれなゐの二尺伸のびびたる薔薇ばらの芽の針やはらかに春雨のふる
- ④ 白鳥かきは哀しからずや空の青海あまのあをにも染そまずただよふ

問3 空欄  に入る表現として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 芭蕉は俗語を使いつつ、それが俗語であることを見事に隠した
- ② 芭蕉は俗語を使いながら、それを詩の言葉、詩語に高めた
- ③ 芭蕉は俗語と雅語の両方を使って、新しい高みを目指した
- ④ 芭蕉は俗語を出発点として、俗語を到着点とした

問4 傍線部B「あそこに来て、芭蕉が門人たちと一緒にもっていた『座の文学の栄え』というものが、なにか細っていく」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 芭蕉が探り求めていた座の文学は、美にのびのびと付け合いのおもしろさで展開し、発展したのだが、蕪村がそれを継承しないで画家の道を選択したので、せつかく発展し飛躍していた座の文学の継承者がいなくなってしまうということ。
- ② 芭蕉が己の全生をかけた座の文学は、言葉の展開と発展、飛躍の過程を経て言葉の宇宙となり場の文学として確立したのだが、蕪村が画家として大成したころには芭蕉の門人たちもいなくなってしまう文学として衰退してしまうということ。
- ③ 芭蕉が門人たちとその確立を目指した座の文学は、百首歌をしのぐ表現力を獲得し全盛期を迎えたが、俳人であると同時に画家でもある蕪村の登場によって、座の文学の魅力や勢いがそがれ、次第に座の文学に加わる人が減っていったということ。
- ④ 芭蕉が力を入れた座の文学は、歌の領域に限りがある百首歌と違って、展開のおもしろさで見事な表現力を見せるに至ったのだが、蕪村のころになると、共同制作の文芸としての発展よりも、個人の句の表現力の洗練へと比重が移っていったということ。

問5 筆者の芭蕉と蕪村に対する考えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 芭蕉は、俳諧の世俗的な地位を高めようと和歌に対抗するために努力を惜しまなかった。一方蕪村は、芭蕉に比べて甘いところがあり、芭蕉の成した俳諧の世界を引き継いで、自分が楽しんでいい句を作って満足し、高みを目指すことはなかった。
- ② 芭蕉は、自分のことだけではなく日本の文学全体のことを考えて俳諧はどのようにあるべきかを絶えず考えていた。一方蕪村は、芭蕉の俳諧の世界をさらに広げはしたものの、自分のことだけを考えて俳人と画家という二足の草鞋を履いた。
- ③ 芭蕉は、和歌の行き詰まりを何とかしたいと考えて、俗語を使うとともに、座の文学に力を入れ、俳諧の道を究めた。一方蕪村は、それを受け継いで俳諧の世界を広げたが、個人的に楽しむことも多く、気分を高揚させるような句を多く作った。
- ④ 芭蕉は、俳諧の世界の偉大な教育者であると同時に喜怒哀楽を表現する庶民的な人情家だった。一方蕪村は、世の中の人々の感情をあおり立てるような句や絵を残した点で、教育者というよりもむしろ芸術家であった。

問 6 この文章の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 芭蕉は、和歌の美意識からは排除されていた俗語を用いて新しい文化を創り出したが、芭蕉の作品には俗語による「軽み」とは対照的な人間の心を沈潜させる暗さが内包されている。
- ② 和歌という既存の文化が停滞していた時期に、一人が一時に複数首詠む定数歌に比べて、座の参加者が句を付け合う中で言葉の世界が展開し飛躍する連句という新しい文化が生まれた。
- ③ 俳諧の世界において、高い芸術性をもつ独自の俳風を完成した芭蕉は長男であり、自分が楽しんでいけばいいという甘えが見える蕪村は、先駆者の苦勞をしていない点で二男にあたる。
- ④ 日本の文学の歴史を見ると、古い文化を尊重し学びながらも、それに満足しないという姿勢が新しい表現や文化を生み出してきたのであり、芭蕉や蕪村もその点で共通していたと言える。

二 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に1～20の番号を付してある。解答番号は12と21。

1 発想というのは、人間の頭の中に（ア）カクノウされたものが、図書館のように順番には並んでいないことを連想させる行為である。全然違うジャンルのものがつながったり、同じような傾向を見出したりできる。いわば、ものごとを抽象化しているからこそ、そういったぼんやりとした関係性のようなものが見えてくることが多い。

2 僕は、固有名詞を覚えない。すると、たとえば、「織田信長」という名詞がデータとして記憶されるのではなく、その人の顔とか性格、イメージ、振舞い、行いなど、関連したさまざまなデータがその近くで記憶される。これは、ぼんやりとした雲のようなイメージのものである。

3 その雲を、僕は「知っている」のである。このようにしてものごとを覚え、理解すると、新しいデータも雲として入力され、もやもやとした煙のようなイメージが頭の中につぎつぎと立ち上る。

4 人物名を忘れることはヒン（イ）バンだが、その人物の顔は覚えているし、何をした人か、どんな性格の人かなら話すことができる。名前が出てこなくても、今はネットでキーワード的なものを幾つか入力すれば、たちまちずばりの名称を（読み方や表記法なども）教えてくれる。だから、固有名詞を覚えていなくても、まったく不都合はない時代になった。

5 このように、A雲のような存在として、ものごとを扱う頭は、これまでになかった発想を生みやすい、と僕は感じている。ものの名称で記憶している人には、思いもかけない関連性を、ときどきふと連想し、理解を深める体験がしばしばだからだ。

6 原子というのは、原子核の周りを電子が回っている状態だ。原子という小さな球体があるわけではない。大きさもないし、原子の中も外もない。近づくほど、（ウ）エイキョウが大きくなるだけである。

7 それどころか、もつと小さな素粒子からできていることが、近年になってわかってきた。量子力学における「不確定性原理」という言葉を聞いたことがあるだろう。多くの人が、「なにことも確定はできない」くらいの意味に、この言葉を使っている。とんでもない間違いだとはいえないが、「なにことも、突き詰めていけば、その核となる大元に行き着くわけではない」くらいの意味なら、そのとおりかもしれない。予定どおりに仕事が終わるかどうかわかりません、というときに使うのは拡大解釈だ。

8 つまり、物体も事象も、言葉というものでは基本的に表すことはできない。言葉にすることで、それを知ったつもりになっても、実はほとんど知らないのと同じだ。それなのに、言葉を知っていればテストで点が（エ）カセげるから、今は大勢が単なる言葉を「記憶」しようとしている。それで「頭が良い」という評価を受ける時代だからである。

9 そういった言葉を記憶する勉強法では、頭の中を整理・整頓するようなイメージがぴったりだった。ジャンルを明確に分け、記憶するものを選択して、無駄のない記憶をすることが、受験で勝つコツだった。

10 しかし、これからの時代はそうではない。何故なら、記憶のアクセスは、人間よりもコンピュータやAIの方が勝っているからだ。

11 B

12 けれども、この種の「頭」は、そろそろいらぬ時代なのである。この転換期にもう差し掛かっている。

13 数十年まえには、正確な計算ができる能力が重んじられた。大勢が算盤そろばんを習っていた。僕が子供の頃がそうである。算盤塾にみんなが通っていたし、学校でも算盤の授業があった。しかし、その後計算機が登場した。僕が小学生のときには、まだ十万円もしたし、かなり大きくて重い機械だった。それがたちまち手の中に収まる大きさになってしまい、値段もどんどん下がった。何のために苦労して算盤を習ったのか、と大勢が感じたことだろう。

14 ちなみに、僕は幼稚園のときに、この算盤塾へ体験入学したことがあった。そこで珠たまの弾き方を教えてもらい、先生が読み上げる数を足す練習をした。三日くらい通っただろうか。だが、僕は先生がいう数字を頭の中で暗算し、それを算盤の珠の位置に移していただけだった。暗算した方が速い、と自分で思ったので、算盤塾には行かない、と親に話したのを覚えている。

15 昔は、計算ができる人が頭の良い人としてチヨウ（オ）ホウ褒された。記憶が正確にできる人も、社会的にのし上がることができた。だが、いずれも、機械にはかなわなくなった。これからは、人間の能力としては必要がない。

16 そして、今のところ、人間に残された仕事とは、発想する頭を使う作業である。その頭は、これまでのような整理・整頓で得られるほどシンプルではないように思えるが、いかがだろうか？

17 ただし、計算がまったく無駄だとはいえない。

18 計算は、基本的な頭の動作であるから、C 訓練をするという意味で有用だろう。ジョギングやウォーキングが健康に良いとされているように、適度にC ことは、非常に大事だと思う。したがって、子供に計算をさせる教育は、今後も続けられるはずである。

19 また、記憶も意味がないというわけではない。

20 発想するために必要な材料の多くは、記憶したものだからだ。空っぽの頭では、発想しようにもなにも出てこない。発想は、関連づけることであり、連想することだ。だから、知識を持っていることは、基本的な条件といえる。ただし、正確な知識である必要はない、という意味で、少し方向性が異なる。雲のようなぼんやりとした記憶の方が、発想にはむしろ向いている。

(森博嗣『アンチ整理術』より。)

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  と 。

(ア) カクノウ

- ① 経営のサイカクを発揮する
- ② 問題のカクシンを突いた発言
- ③ カクチヨウの高さが感じられる和歌
- ④ 新しい流行にカクセイの感を禁じ得ない

(イ) ヒンバン

- ① バンカンを買うような態度
- ② 雑草のバンシヨクカに手を焼く
- ③ どう考えてもバンゼンとしない
- ④ 無料で見本をバンブする

(ウ) エイキョウ

- ① 市民の意見をハンエイする
- ② 決然としてエイダンを下す
- ③ エイイ検討中です
- ④ インエイを替びた音楽

(エ) カセげる

- ① 卒業後はカギョウを手伝う
- ② 骨にフカをかけて強化を図る
- ③ カホウ者で幸せだ
- ④ 工場をフルカドウしている

(オ) チョウボウ

- ① ボウモツ殿が公開される
- ② 解決のボウトを見いだす
- ③ 熱をボウサシする
- ④ 今年もボウネン満作だと喜ぶ

問2 傍線部A「雲のような存在として、ものごとを扱う頭は、これまでになかった発想を生みやすい」とあるが、その理由を筆者はどのように言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① ある物事を覚え、理解するときに、その対象の固有名詞は覚えなくて、近くのさまざまなデータのみを記憶しておく、それまでに同じようにして記憶していたさまざまなデータによる記憶を呼び起こしそれらと自由に結合しやすいから。
- ② ある物事を覚え、理解するときに、その対象そのもののデータだけに縛られないで、無駄かどうかを考えずその近くにあるデータも一緒に記憶しておく、その記憶はその対象に関連するものではあっても、決して体系的につながっていないので、自由にいろいろな形で関連する可能性があるから。
- ③ ある物事を覚え、理解するときに、その対象に関連するさまざまなデータをイメージとして記憶すると、それらがより深い理解につながる、思いもかけない結びつき方をすることがあるから。
- ④ ある物事を覚え、理解するときに、言葉を用いて限定的に記憶するとそれを忘れやすいが、言葉ではなくイメージで記憶すると印象に残りやすく忘れにくい。イメージ同士が必然的に自由につながり合うようになりやすいから。

問3 空欄  には、次の五文が入る。その入る順として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ア 整理された「頭」が優遇されたことが、整理・整頓の重要性が社会に広がった一因となったかもしれない。
- イ 具体的には、裕福になれる。
- ウ 仕事で役に立つ人間は、出世して社会的により高い立場に行き着ける。
- エ 記憶の有無やそのアクセスの正確さが試験で問われたのは、そういった仕事をする人間がチヨウホウされたからである。
- オ そんな結果に結びついていた。

- ① エ ↓ ウ ↓ ア ↓ オ ↓ イ
- ② エ ↓ ア ↓ ウ ↓ イ ↓ オ
- ③ ウ ↓ オ ↓ イ ↓ エ ↓ ア
- ④ ウ ↓ イ ↓ ア ↓ オ ↓ エ

問 4 空欄 C に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 19。

- ① 脳に栄養を送る
- ② 脳を鍛える
- ③ 頭を良くする
- ④ 頭を動かす

問 5 次に示すのは、本文を読んだ後に、四人の生徒が話し合っている場面である。本文の読み取りに関する内容として**適当でない箇所がある発言を**、①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 20。

- ① 生徒 A —— 今まさに試験の形が変わってきています。筆者の言うように、計算機が登場し小型化するなど進化したことによつて算盤を使う人が求められなくなったような形で時代が変わると、人間に求められる能力も当然変わるのだなと思いました。
- ② 生徒 B —— 固有名詞を覚えなくてもそれに関するデータを知っていれば検索できてわかるというのが妙に納得できました。でも、筆者は、固有名詞を覚えなくてもいいと言っているわけではなく、知っているだけでは無駄だと言っているのですよね。
- ③ 生徒 C —— 記憶のアクセスは、確かに、人間はコンピュータや AI に負けると思います。でも、いや、だからこそ、筆者の言うように、まずいろいろな情報をきちんとしたデータとして記憶して、そこからさまざまな発想ができる人間になりたいです。
- ④ 生徒 D —— 発想の条件は知識を持っていることだが、その知識は完璧なものより完璧でない方が自由な発想に向いているとか、覚えた知識を整理する必要はないと考える筆者は、覚えたり発想したりすることをとても楽しんでいるのだなあとと思いました。

問 6 この文章に用いられた具体例の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ①  2 段落の「織田信長」の具体例では、その人物像を誰もが知っているであろう「織田信長」を用いて、筆者が日頃行っている記憶の仕方を具体的に示すことで、「ぼんやりとした雲のようなイメージ」を読者が理解できるように導いている。
- ②  6 段落の「原子」の具体例は、「ぼんやりとした雲のようなイメージ」、つまり、記憶したものが頭の中でどのように位置しているかをさらにわかりやすく説明するために、読者がイメージしやすそうなものを再度示している。
- ③  7 段落では、「量子力学における『不確定性原理』」という、一般的には理解されにくい言葉をあえて示すことで、人間がいくら記憶しても記憶した対象を確実に理解できるわけではないということを暗に伝えている。
- ④  14 段落の「算盤塾へ体験入学」の具体例は、計算機が発達していなかった過去の事実を示すことで、計算機が発達した現代において計算は人間に残された仕事ではないということを強調する役割を果たしている。

三 次の問い（問1～11）に答えよ。解答番号は  ～ 。

問1 次のア～ウの文の説明にあてはまる語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

ア 矛盾・対立するものが互いに争うこと。

- ① 相克 ② 相反 ③ 背反 ④ 離反

イ 教訓や風刺を込めた話。

- ① 説話 ② 挿話 ③ 逸話 ④ 寓話うたがわ

ウ 気ままな考え・思いつくままの自分勝手な考え。

- ① 故意 ② 恣意 ③ 野心 ④ 虚心

問2 次のア～ウの意味を表す語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

ア 範疇・部門。はんちゆう

- ① テクスト ② モチーフ ③ カテゴリー ④ アルゴリー

イ 自由主義。

- ① リベラリズム ② ポヒユリズム ③ リアリズム ④ ナショナリズム

ウ 生命倫理。

- ① バイオロジー ② バイオハザード ③ バイオマス ④ バイオエシックス

問3 次の各文のうち、敬語の使い方の説明として誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

① 「お(ご)くする」「お(ご)くいたす」は、尊敬表現である。

② 「いらっしやる」は「いる」「来る」「行く」の尊敬表現である。

③ 「せがれ」「愚息」「息子ども」は謙譲の意味を含む体言である。

④ 「あげる」「おしあげる」「いただく」は謙譲の補助動詞になる。

問4 次の各文のうち、敬語の使い方が誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 。

- ① お目にかかつてからお話します。
- ② お願いいたされても困ってしまいます。
- ③ 君のお母さんはどちらにいらっしゃいますか。
- ④ 父がお礼に伺いたいと申しております。

問5 次の各文の傍線部のうち、他と品詞が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 。

- ① これはまた、なんとも信じられない話だ。
- ② いずれまたどこかでお会いしましょう。
- ③ 彼女は美しく、また親切でもある。
- ④ また会えるとは思ってもしなかった。

問6 次の各文の傍線部の「で」のうち、他と種類が異なるものを、①～④のうちから一つ

選べ。解答番号は 。

- ① この本をもう読んでしまったのか。
- ② 兄はテニス部で、僕は吹奏楽部だ。
- ③ 信じられないが事実であるようだ。
- ④ こちらが社長でございます。

問7 次の各文の傍線部の「に」のうち、他と用法が異なるものを、①～④のうちから一つ

選べ。解答番号は 。

- ① 知らない人に話しかけられる。
- ② これは多くの人に愛される名曲だ。
- ③ 一番バツターにホームランを打たれた。
- ④ 赤ちゃんにミルクを飲ませる。

問8 次のうち、慣用句の表記として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答

番号は 。

- ① 濡れ手で粟
- ② 高値の花
- ③ 木で花を括る
- ④ 孫にも衣装

問 9 次の四字熟語のうち、「たぐさんのつまらない人や物」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 軽佻浮薄<sup>けいちょうぶつ</sup>      ② 多士済済      ③ 有象無象      ④ 鶉鳴狗盜<sup>くわうめいことう</sup>

問 10 次の四字熟語のうち、「自分で考えずに、他人の意見にただ従うこと」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 優柔不断      ② 同工異曲      ③ 面従腹背      ④ 付和雷同

問 11 次の故事成語のうち、「広く世間で評判になる」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 人口に膾炙<sup>かいし</sup>する      ② 奇貨居<sup>お</sup>くべし      ③ 白眉      ④ 白眼視

## 国語② 解答一覧と配点案

大問	番号	正解
一 35点	1	④
	2	③
	3	①
	4	①
	5	③
	6	②
	7	①
	8	②
	9	④
	10	③
	11	④
二 35点	12	③
	13	②
	14	④
	15	④
	16	①
	17	③
	18	②
	19	④
	20	③
	21	①
三 30点	22	①
	23	④
	24	②
	25	③
	26	①
	27	④
	28	①
	29	②
	30	③
	31	①
	32	④
	33	①

	34	③
	35	④
	36	①